

改善方策実施計画書

担当部局：外国語学部

責任者：学部長

幹事：外国語学部事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	社会貢献に力を入れる必要がある。					
改善方策	7-9-2 ホームページに社会貢献の状況を開示し、自治体やNPO法人からの要請を受け入れやすくする態勢を整える。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
2010年度実施計画			達成時期	2010年度取り組み結果		
実施案の作成			2011.03	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由) 大学のHP が大幅に更新され、掲示する余裕がなかった。		
2011年度実施計画			達成時期	2011年度取り組み結果		
実施案の作成と掲載。			2012.03	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由) 学部として公開するのにふさわしい材料が無かったため掲載せず。		
2012年度実施計画			達成時期	2012年度取り組み結果		
『中国語大辞典』(中国語学科編纂)(角川書店)を改訂して社会に公開する。			2013.03	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由) 改訂作業が学園から承認を得られておらず、未着手のままである。		
2013年度実施計画			達成時期	2013年度取り組み結果		
『中国語大辞典』の補ていのためのデータの収集整理を個別に行う。				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2014年度実施計画			達成時期	2014年度取り組み結果		
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2015年度実施計画			達成時期	2015年度取り組み結果		
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	社会貢献に力を入れる必要がある。
改善方策	7-9-2 ホームページに社会貢献の状況を開示し、自治体やNPO 法人からの要請を受け入れやすくする態勢を整える。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

大学のHPが大幅に更新されたため、学部的基本的な情報を盛り込む仕事に力を入れたため、手が回らなかった。
2011 年度に充実させる。

所見	計画通り実施されることを期待します。
----	--------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

ホームページの体裁上、社会貢献の開示は見送った。本学部の教員は民間の催しに講師、アドバイザーとして出ているが、その機会に本学部の社会貢献に対する姿勢を説明し、情宣に努めている。

所見	2011 年度もHP公開に至っていないので、取り組み結果は未達成が妥当であると考えます。2012 年度における実施に期待します。
----	--

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

『中国語大辞典』の改訂については、学園当局からの承認が得られておらず、よって改訂作業自体は未着手となっている。今後は、PDF化を視野に入れて、社会への公開を実施する方向性を考える。HP 上で広く学部教員の活動も含めて、本辞典の公開を検討する必要がある。

所見	2010 年度以降、学部の社会貢献の開示についての取り組みは行われていません。3 年間で方策が全く進んでいない現実を再認識し、新規に設定した期間内で確実に方策が実施されることを望みます。
----	---

(2014 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--

改善方策実施計画書

担当部局：外国語学部 責任者：学部長 幹事：外国語学部事務局

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	社会貢献に力を入れる必要がある。					
改善方策	7-9-3 日本語学科のネットを利用した日本語学習のコンテンツを逐次ネット上に配し、今後5年間のうちに完成させる。(日本語学科)					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
2010年度実施計画			達成時期	2010年度取り組み結果		
コンテンツの作成着手 (すでに2009年度より立案)			2011.03	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2011年度実施計画			達成時期	2011年度取り組み結果		
日本語コンテンツの作成 英語コンテンツの充実・拡充 平成22年度のコンテンツを自習教材として教材化を図る。			2012.03	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2012年度実施計画			達成時期	2012年度取り組み結果		
日本語コンテンツの充実・拡充 英語コンテンツの充実・拡充 既存コンテンツの自習教材化			2013.03	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2013年度実施計画			達成時期	2013年度取り組み結果		
日本語コンテンツの充実・拡充 英語コンテンツの充実・拡充 既存コンテンツの自習教材化			2014.03	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2014年度実施計画			達成時期	2014年度取り組み結果		
日本語コンテンツの作成 英語コンテンツの充実・拡充 既存コンテンツの自習教材化			2015.03	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2015年度実施計画			達成時期	2015年度取り組み結果		
				☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	社会貢献に力を入れる必要がある。
改善方策	7-9-3 日本語学科のネットを利用した日本語学習のコンテンツを逐次ネット上に配し、今後5年間のうちに完成させる。(日本語学科)

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

昨年度公開したコンテンツの間違いを訂正し、コンテンツ内容を充実させた。

所見	計画通り実施されることを期待します。
----	--------------------

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

コンテンツ開発と教材化の2つの段階を設け、開発を進めている。教材化については英語分野では少しずつ教材の分量も増えて来て、スピーチからプレゼンテーションも含む多様性のあるコンテンツになりつつある。今年度よりこれまで作成したコンテンツをもとに教材化を初めている。具体的にはそれぞれのリスニング・ファイルにそれぞれ学習者の理解を測る問題を作成し、また、同時に学習者の学習履歴等を把握できるように、Moodle を使用して教材開発を進めている。Moodle は無料で利用できる、世界的に急速に普及しつつある高性能の Learning Management System (LMS) であるが、中国語学科の(上地専任講師の)協力のもと、外国語学習システムとして開発を進めている。

提携校を含め、国内外の大学と協力して進めるという点については、もう少し時間が必要である。どのような形で協力を依頼し、また、共同で教材開発を進めていくのが効率的であるかについては今少し検討が必要であると思われる。

所見	現状の説明が不十分です。日本語学科が主体になっている日本語教材に開発と公開にどのように英語分野のコンテンツが関わっているのかよくわかりません。既に東京外国語大学などがコンテンツの開示を行っていますが、既存の学習システムとの相違点を認識し、新たな社会的貢献はどのようなことであるのかについても明確にする必要があります。
----	--

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

コンテンツ公開のための、サーバ機器の維持に努めた結果、特に問題なくその目的は達成された。コンテンツは、すでにインターネット上に公開し、自由に利用できる状態になっており、引き続き管理を維持していく。改善方策の欄に記載された日本語学科の進捗状況については、来年度内に精査する。

所見	2012年度の所見にもあるように、独自の社会貢献は何であるかについては明確にする必要があります。
----	--

(2014年3月31日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--